

厚生労働大臣　舛添　要一 殿

徳島大学病院長　香川　征

## 徳島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

## 記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	55.7人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

## 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	175人	173人	311.0人	看護業務補助	28人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	95人	54人	135.0人	理学療法士	8人	麻酔臨床検査技師	48人
薬剤師	22人	11人	33.0人	作業療法士	5人	衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	24人	1人	24.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	477人	31人	501.0人	臨床工学技士	8人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	3人	3人	6.0人	栄養士	1人	その他の技術員	28人
歯科衛生士	6人	4人	9.0人	歯科技工士	6人	事務職員	96人
管理栄養士	6人	2人	7.5人	診療放射線技師	33人	その他の職員	0人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	589.6人	0人	589.6人
1日当たり平均外来患者数	1265.9人	372.0人	1637.8人
1日当たり平均調剤数	入院 270.4 剤	外来 401.5 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を曆日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ曆日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
インプラント義歯	有・無	3人
顎顔面補綴	有・無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	0人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤体制遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	20人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	0人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
三次元形状解析による顎面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	24人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤体制遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血肝細胞移植	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血管細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	6人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・韌帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	人
色素性乾皮症にかかる遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジエネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニケルトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	0人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
内視鏡下頸部両性腫瘍摘出術	有・無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
カフェイン併用化学療法	有・無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MBA)治療	有・無	0人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

平成20年4月以降に取り下げもしくは保険適用となったもの(平成19年度には先進医療として届け出受理されていたもの)

・顔面骨・頭蓋骨の観血的移動術	0	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	2	人
・高発癌性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	0	人
・歯周組織再生誘導法	1	人

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	72 人	・モヤモヤ病(ウィルス動脈輪閉塞症)	55 人
・多発性硬化症	80 人	・ウェグナー肉芽腫症	5 人
・重症筋無力症	89 人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	33 人
・全身性エリテマトーデス	173 人	・多系統萎縮症	31 人
・スモン	17 人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人
・再生不良性貧血	51 人	・膿疱性乾癬	8 人
・サルコイドーシス	78 人	・広範脊柱管狭窄症	16 人
・筋萎縮性側索硬化症	96 人	・原発性胆汁性肝硬変	24 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	160 人	・重症急性胰炎	4 人
・特発性血小板減少性紫斑病	74 人	・特発性大腿骨頭壞死症	17 人
・結節性動脈周囲炎	24 人	・混合性結合組織病	27 人
・潰瘍性大腸炎	100 人	・原発性免疫不全症候群	1 人
・大動脈炎症候群	23 人	・特発性間質性肺炎	33 人
・ビュルガー病	18 人	・網膜色素変性症	10 人
・天疱瘡	21 人	・プリオント病	1 人
・脊髄小脳変性症	82 人	・原発性肺高血圧症	4 人
・クローン病	53 人	・神経線維腫症	32 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	6 人	・亜急性硬化性全脳炎	1 人
・悪性関節リウマチ	16 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2 人
・パーキンソン病関連疾患	277 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	0 人
・アミロイドーシス	14 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	2 人
・後縦靭帯骨化症	114 人	・副腎白質ジストロフィー	3 人
・ハンチントン病	1 人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。
	2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理部門：29回
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 32 例 剖検率 15.4 %

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助金等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
携帯型6自由度顎運動測定器の開発応用	重本修司	歯科	1,400,000	補委 文部科学省
医学教育コンテンツ作成を行う医療画像3Dシステムの開発	森川富昭	医療情報部	800,000	補委 文部科学省
肺癌微小転移形成に関わる遺伝子の同定とその分子標的制御	柿内聰司	内科	1,000,000	補委 文部科学省
下半身用圧負荷心エコーによる左房一左室連関に関する検討	山田博胤	内科	700,000	補委 文部科学省
新規腎機能マーカーである血清シタチニンCの薬物投与設計ツールとしての有用性の検討	鳥井真由美	薬剤部	1,400,000	補委 文部科学省
プレオマイシン肺線維症モデルにおける分子標的治療薬の抗線維化効果の検討	青野純典	内科	1,700,000	補委 文部科学省
膵β細胞におけるChREBP蛋白質によるインスリン遺伝子発現調節機構の解明	小杉知里	糖尿病対策センター	1,400,000	補委 文部科学省
うつ病におけるLIM関連遺伝子群の分子医学的検討	伊賀淳一	精神科神経科	900,000	補委 文部科学省
精神疾患と神経栄養因子の分子薬理遺伝学的総合的検討	山内健	精神科神経科	1,300,000	補委 文部科学省
インターフェロンによる新たな肝癌細胞着床防止機構の解明	居村暁	外科	1,100,000	補委 文部科学省
増殖因子によるラット胎仔肺組織移植片の増殖・分化の促進	監崎孝一郎	外科	1,600,000	補委 文部科学省
損傷骨格筋における筋線維タイプ移行のメカニズム解明	松浦哲也	リハビリテーション部	700,000	補委 文部科学省
ミュータンス連鎖球菌のヒト樹状細胞成熟に及ぼす補体の影響	高松夏子	歯科	1,100,000	補委 文部科学省
歯髓炎の病態形成におけるリンパ球浸潤機構の解析	高橋加奈子	歯科	1,200,000	補委 文部科学省
脱メチル化プロモーター融合アクアボリン5遺伝子導入による唾液分泌促進作用	茂木勝美	歯科口腔外科	1,300,000	補委 文部科学省
骨再生医療における生体吸収型インテリジェントマテリアルの開発とその機能解析	湯浅哲也	歯科口腔外科	1,500,000	補委 文部科学省
RANKLシグナルを介した関節リウマチ顎関節破壊機構の解明	井澤俊	矯正歯科	700,000	補委 文部科学省
レーザー・ドップラー式血流画像化装置を利用した矯正学的評価法の開発	富田優子	矯正歯科	1,400,000	補委 文部科学省
創傷治癒過程における瘢痕形成メカニズムの解析	高橋巧	矯正歯科	1,000,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
メカニカルストレス応答性遺伝子ペリオスチンの歯周組織リモデリングに果たす役割	藤原慎視	矯正歯科	1,100,000	補委 文部科学省
カルシウム置換を応用した亜鉛徐放性生体機能材料の創製	辻けい子	矯正歯科	1,000,000	補委 文部科学省
急速アパタイト転換型リン酸カルシウムセメントの生活歯髄切断法への応用に関する研究	木村奈津子	小児歯科	800,000	補委 文部科学省
歯の大きさに関する遺伝的要因の分析	阿部洋子	小児歯科	400,000	補委 文部科学省
薬物誘発性歯肉増殖症の遺伝子リスクファクターの検索	和田智恵	小児歯科	800,000	補委 文部科学省
MSFを分子標的とした口腔癌の浸潤抑制に関する基礎的研究	大江剛	歯科口腔外科	1,300,000	補委 文部科学省
エリスロポエチレンの血管内皮前駆細胞動員作用を用いた新たな血管新生療法の開発	岩瀬俊	内科	1,800,000	補委 文部科学省
肺癌脳転移に関する新規分子標的遺伝子の同定と機能解析	古川千幸	内科	1,500,000	補委 文部科学省
VEGFE毒素融合蛋白による腫瘍血管内皮細胞を標的とした血管新生阻害剤の開発	住友賢哉	内科	1,700,000	補委 文部科学省
糖尿病性腎症におけるId2の機能解析	中村玲	検査部	2,400,000	補委 文部科学省
ジストニア患者に対する深部脳刺激(DBS)による脳代謝変化	浅沼光太郎	神経内科	2,000,000	補委 文部科学省
統合失調症の磁気共鳴イメージと磁気共鳴スペクトロスコピーによる研究	田吉伸哉	精神科神経科	1,000,000	補委 文部科学省
3T H-MRSと遺伝子解析を用いたOCDの多角的解析研究	中瀧理仁	精神科神経科	1,900,000	補委 文部科学省
3テスラ臨床MRI装置を用いた磁化率効果による子宮内膜症の描出能の検討	竹内麻由美	放射線科	1,800,000	補委 文部科学省
クロム工場労働者における肺癌の危険性因子の探索の研究	長尾妙子	外科	2,100,000	補委 文部科学省
代謝ストレス時の心血管系ATP感受性Kイオンチャネルの役割と麻酔薬の影響	河野崇	麻酔科	2,700,000	補委 文部科学省
歯髄組織のロバストネス強化による歯髄炎予防に関する研究	浅野将宏	歯科	1,700,000	補委 文部科学省
顎関節雑音症例の診断法の考案－顎運動の観点からみて－	石川輝明	高次歯科診療部	900,000	補委 文部科学省
超効率方CXCR4 siRNAを用いた口腔癌のリンパ節転移抑制療法の開発	内田大亮	歯科口腔外科	2,300,000	補委 文部科学省
アペール症候群の病態成立機構関連因子についての解析	谷本起穂	矯正歯科	2,400,000	補委 文部科学省
ケモカインから見た歯周炎病変局所浸潤リンパ球の組織破壊への関与に対する研究	細川義隆	歯科	1,700,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
歯周炎再発患者の唾液中に含まれるサイトカインの総合的解析	横山正明	歯科	1,900,000	補委 文部科学省
フロバクテリウム特異的な唾液sIgA抗体が舌苔の成熟に及ぼす影響	福井誠	歯科	2,300,000	補委 文部科学省
骨格系のホメオスタシス維持と病態発症に関する分子制御機構の解明と治療法の開発	松本俊夫	内科	11,100,000	補委 文部科学省
高脂血症および高血糖症における皮膚微小循環障害への影響について	中西秀樹	形成外科	2,500,000	補委 文部科学省
脱細胞化心臓弁のin vivo環境における合目的な再細胞化に関する研究	北川哲也	心臓血管外科	3,200,000	補委 文部科学省
テラーメイド型機能的生体材料の開発	市川哲雄	歯科	1,400,000	補委 文部科学省
ジストニアの発症機序と治療に関する総合的研究	梶龍児	神経内科	5,000,000	補委 文部科学省
マウス仮骨延長術における筋・骨格系組織の再生メカニズム	安井夏生	整形外科	4,300,000	補委 文部科学省
骨置換性カーボネイトアパタイトによる顎骨再建と骨再生用スキャフォールドへの応用	宮本洋二	歯科口腔外科	3,800,000	補委 文部科学省
ヒト脱落乳歯歯髄幹細胞の多能性および再生医療への可能性について	三留正人	小児歯科	4,300,000	補委 文部科学省
デザインペプチドライブラー構築による細菌付着阻止分子探索と感染性心内膜炎予防	伊藤博夫	歯科	4,200,000	補委 文部科学省
脳動脈瘤形成におけるエストロゲンの作用とその分子生物学的機構	永廣信治	脳神経外科	10,600,000	補委 文部科学省
骨髄間質由来成体幹細胞の歯原性細胞への分化誘導と歯の再生医療への応用	長山勝	歯科口腔外科	10,800,000	補委 文部科学省
シリコンカーバイドのエピ膜上に形成される表面欠陥の起源の解明とその除去方法の開発	岡田達也	医療情報部	500,000	補委 文部科学省
咬合面形態評価の定量化に関する研究	竹内久裕	歯科	900,000	補委 文部科学省
肝癌の浸潤・転移環境を標的とした複合遺伝子治療	清水一郎	内科	1,400,000	補委 文部科学省
ヘパリンコファクターIIの動脈硬化進展抑制に対するトランスレーショナルリサーチ	栗飯原賢一	内科	1,000,000	補委 文部科学省
肺癌に対するHM1.24抗原を標的とした特異的免疫療法の開発	西岡安彦	内科	1,600,000	補委 文部科学省
活性化グルコルチコイド受容体によるミトコンドリア遺伝子の転写プログラム制御	三ツ井貴夫	神経内科	900,000	補委 文部科学省
視床下部オレキシンの発現抑制による低血糖症の研究	桑島正道	内科	700,000	補委 文部科学省
インターナライズ抗体を用いた骨髄腫細胞の特異的ターゲッティング法の開発	尾崎修治	輸血部	700,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腎病変形性に関わるインテグリンシングナル経路における活性酸素の役割解明	香 美 祥 二	小児科	1,300,000	補委 文部科学省
高磁場MRSを用いた脳内アミノ酸神経伝達物質動態による気分、不安障害の解明	住 谷 さ つ き	精神科神経科	1,300,000	補委 文部科学省
大腸癌に対する新たな放射線科学治療の感受性増強法の開発	西 岡 将 規	周産母子センター	1,300,000	補委 文部科学省
アクチビンーフオリスタチンシステム制御による新たな肝虚血再灌流障害対策の開発	森 根 裕 二	外科	900,000	補委 文部科学省
吸入発癌物質・クロム酸塩の暴露による肺癌の発癌過程の解明	近 藤 和 也	外科	1,300,000	補委 文部科学省
短時間作用型β1遮断薬術中投与による周術期心筋保護戦略を確立する	北 畑 洋	麻酔科	900,000	補委 文部科学省
泌尿器癌の浸潤・転移におけるガレクチナー3の腫瘍制御機構の解明	岡 夏 生	泌尿器科	1,000,000	補委 文部科学省
RNA干渉を応用した角膜ヘルペスの新しい治療法の開発	塩 田 洋	眼科	1,300,000	補委 文部科学省
体表先天異常に関与する遺伝子多型の解析:多因子疾患発生予防の基礎的アプローチ	松 本 和 也	形成外科	1,400,000	補委 文部科学省
遺伝子工学的手法を応用した難治性根尖性歯周炎症例の細菌侵襲の実態の解析	松 尾 敬 志	歯科	1,100,000	補委 文部科学省
NF-κBシグナリング制御による口腔癌に対するリンパ管新生阻止療法の開発	東 雅 之	歯科口腔外科	1,200,000	補委 文部科学省
C型ナトリウム利尿ペプチドを用いた難治性心筋炎の診断・治療法の開発	添 木 武	内科	2,100,000	補委 文部科学省
血管内皮機能を標的としたグルココルチコイド誘発性血管障害に対する新規治療法の開発	赤 池 雅 史	内科	2,100,000	補委 文部科学省
アジア人に重要な新しいネフローゼ遺伝子座からの疾患遺伝子探査	塚 口 裕 康	内科	2,900,000	補委 文部科学省
新たな末梢血幹細胞動員法の開発に関する研究	渡 辺 浩 良	小児科	1,300,000	補委 文部科学省
表皮角化細胞のエピジェネティクス制御とその機能異常	久 保 宣 明	皮膚科	1,800,000	補委 文部科学省
ヒト毛包再生法の確立	荒 瀬 誠 治	皮膚科	1,800,000	補委 文部科学省
バクテリアルトランスロケーションのパラセルラールートの解析と重症度評価法の開発	栗 田 信 浩	外科	1,800,000	補委 文部科学省
食道癌術前後栄養による免疫能の変化と抗腫瘍効果と術後病態への影響	宇 山 攻	外科	2,600,000	補委 文部科学省
低酸素環境を標的とした膵臓癌に対する新たな治療法の開発	三 宅 講 太 朗	外科	2,200,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
頸動脈プラーク不安定機構にかかるプロテオグリカンの意義とその制御	宇野昌明	脳神経外科	1,700,000	補委 文部科学省
脳動脈瘤形成と破裂および抑制における炎症性因子関与について	松原俊二	脳神経外科	2,000,000	補委 文部科学省
高血糖が吸入麻酔薬による心筋保護効果を抑制するメカニズム	田中克哉	麻酔科	2,100,000	補委 文部科学省
心筋虚血時に細胞外に蓄積するKイオンは、細胞内Caイオンの上昇を抑制するか	大下修造	麻酔科	2,400,000	補委 文部科学省
泌尿器癌の集学的治療におけるガレクチン-3の応用	福森知治	泌尿器科	2,600,000	補委 文部科学省
前庭性嘔吐反射性中枢の機能地図の解明:動物モデルを用いた研究	武田憲昭	耳鼻咽喉科	1,800,000	補委 文部科学省
生体内組織工学における血管柄付き再生脂肪の研究—1再生脂肪細胞の由来を確かめる	橋本一郎	形成外科	2,100,000	補委 文部科学省
フッ化ジアミンシリケートによる齲歯予防と象牙質知覚過敏症治療剤への臨床応用	菅俊行	歯科	1,600,000	補委 文部科学省
象牙質齲歯侵入細菌におけるクオラムセンシング機構の実態の解明	尾崎和美	歯科	2,300,000	補委 文部科学省
総義歯の咬合様式選択のためのガイドラインの構築	永尾寛	歯科	2,200,000	補委 文部科学省
高溶解性ベクトルリン酸カルシウムセメントの創製	河野文昭	歯科	1,500,000	補委 文部科学省
VEGFに対する分子標的薬とプロテアソーム阻害剤を用いた口腔癌の新規治療法の開発	玉谷哲也	歯科口腔外科	2,500,000	補委 文部科学省
口腔癌に対するTS-1・プロテアソーム阻害剤・放射線同時併用療法の開発	原田耕志	歯科口腔外科	2,000,000	補委 文部科学省
癌抑制遺伝子maspinとHDAC1の相互作用によるヒト唾液腺細胞の分化制御	板東高志	歯科口腔外科	2,600,000	補委 文部科学省
リン酸カルシウム置換処理による機能性ベクトルマテリアルの開発	堀内信也	矯正歯科	1,900,000	補委 文部科学省
歯根膜細胞におけるRhoファミーランパク質RhoEの細胞骨格制御機構の解明	大庭康雄	矯正歯科	2,700,000	補委 文部科学省
歯周組織のロバストネスに視点をおいた歯周病予防法の研究	木戸淳一	歯科	2,100,000	補委 文部科学省
オリゴ糖の亜鉛吸収促進作用を利用した味覚障害治療法の開発:動物モデル研究	阿部晃治	耳鼻咽喉科	1,100,000	補委 文部科学省
矯正用非磁性体金属の開発	誉田栄一	歯科	900,000	補委 文部科学省
不死化歯由来細胞株と生体内吸収性材料を用いた歯の再生医療用スキヤフォールドの開発	宮本洋二	歯科口腔外科	800,000	補委 文部科学省
エピジェネティクスを応用した幹細胞の創製とそれを用いた再生医療実現の可能性	長山勝	歯科口腔外科	800,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
乳歯歯髄細胞が神経幹細胞の増殖・分化に与える影響について	三留雅人	小児歯科	1,400,000	補委 文部科学省
細胞の冬眠タンパク誘導を利用した新たな肝保存装置の開発	島田光生	外科	1,800,000	補委 文部科学省
歯髄細胞におけるオスモティックストレスと硬組織形成能に関する細胞生物学的解析	永田俊彦	歯科	1,800,000	補委 文部科学省
ストレスDNAチップを用いた咀嚼障害、顎関節症、口腔顎面慢性疼痛の病態評価	市川哲雄	歯科	1,500,000	補委 文部科学省
肝移植後C型肝炎再発における肝線維化とその制御に関する研究	池上徹	外科	1,370,000	補委 文部科学省
口腔扁平上皮癌幹細胞の同定とその表現形質の解析	尾上富太郎	歯科口腔外科	1,310,000	補委 文部科学省
肺癌転移の臓器微小環境特性から見た分子標的治療法の開発	曾根三郎	内科	9,500,000	補委 文部科学省
気分障害の治療システム開発と検証に関する研究	大森哲郎	精神科神経科	1,000,000	補委 厚生労働省
末梢白血球遺伝子発現を用いたうつ病の診断指標と病態解析	大森哲郎	精神科神経科	1,000,000	補委 財団法人先進医薬研究振興財団

計 111

(注) 1 國、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本内分泌学会雑誌	腫瘍性骨軟化症の一例	遠藤 逸朗	内科
The Journal of Nursing Investigation	Effects of intervention with back-lying exercises with bent knees pointing upwards to prevent disuse muscle atrophy in patients with post-stroke hemiplegia effects of intervention acute post-stroke period lower extremity muscle prev	Shinjiro Takata	整形外科
日本放射線腫瘍学会誌	当院におけるTBI (Total Body Irradiation) 後の骨変化の発生頻度	山下 恭	放射線科
臨床麻酔	揮発性吸入麻酔薬によるプレコンディショニング	田中 克哉	麻酔科
Anesthesia Network	麻酔薬によるプレコンディショニングは摘出心においてNa <sup>+</sup> -Ca <sup>2+</sup> 交換抑制で誘発される機械的および代謝的機能とカルシウム処理を増強する	田中 克哉	麻酔科
Anesthesiology	Effects of Propofol on Glucose Tolerance in Rabbits: A Comparison with Isoflurane The American Society of Anesthesiologists	Okada Tsuyoshi	手術部
Anesthesiology	Mechanisms of impaired glucose tolerance and insulin secretion during isoflurane anesthesia The American Society of Anesthesiologists	Okada Tsuyoshi	手術部
CLINICAL CALCIUM	NO bioavailability	赤池 雅史	内科
日本病院薬剤師会雑誌	最近の文献情報より脳・精神疾患の最前線(1)	阿部 真治	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌	最近の文献情報より新しいがん治療に向けて(1)	中村 敏己	薬剤部
徳島大学アイソトープ総合センターニュース	徳島大学アイソトープ総合センターニュース	菅田 栄一	歯科
日本病院薬剤師会雑誌	最近の文献情報より脳・精神疾患の最前線(2)	小笠原 聰子	薬剤部
The 16th international congress of Dentomaxillofacial Radiology	Mediastinal abscess originated from dental infection: evaluation of 2 cases with CT images	Akira Takahashi	歯科
日本歯科保存学雑誌	フッ化ジアミンシリケートの象牙質知覚過敏症治療剤への応用—抜去歯を用いた象牙細管封鎖能の検討—	菅 俊行	歯科
四国歯学会雑誌	口唇部粘液嚢胞の超音波画像所見	高橋 章	歯科
四国歯学会雑誌	顎頚面領域における超音波画像表示領域に関する検討	高橋 章	歯科
日本病院薬剤師会雑誌	最近の文献情報より新しいがん治療に向けて(2)	木宿 昌俊	薬剤部
四国医学雑誌	メタボリックシンドロームの克服に向けて メタボリックシンドロームと肥満	藤中 雄一	内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Society of Instrument and Control Engineers Proceedings of the International Symposium on Biological and Physiological Engineering /The 22nd SICE Symposium on Biological and Physiological Engineering pp.117-118	Effects of a time-varying magnetic field on bovine adrenal chromaffin cells.	Toshitaka Ikehara	歯科
四国医学雑誌 Vol.63 No.1,2 27-31頁	医師臨床研修必修化時代の卒後医学教育—現状と考えられる未来・打開策—	北川 哲也	心臓血管外科
四国医学雑誌 Vol.63 No.1,2 5-10頁	徳島大学の医学教育を考える—臨床医学教育—	赤池 雅史	内科
日本歯科保存学雑誌 Vol.50 No.3 313-320頁	フッ化ジアミンシリケートの象牙質知覚過敏症治療剤への応用—抜去歯を用いた象牙細管封鎖能の検討—	菅 俊行	歯科
TDM研究 Vol.24 No.3 s123 頁	腎機能障害患者におけるティコプラニン連日投与方法に関する検討	下岡 幸恵	薬剤部
日本放射線腫瘍学会誌 Vol.19 No.suppl. 1 109頁	当院におけるTBI (Total Body Irradiation) 後の骨変化の発生頻度	山下 恒	放射線科
保健師ジャーナル Vol.64 No.1 24-28頁	ITを活用したバーチャル相談室「まちの保健室」	杉原治美	看護部
精神神経学雑誌 109:844-845.2007	うつ病の心因、内因、器質因	大森哲郎	精神科神経科
Psychiatry Reseach 158:19-25	Subjective and objective quality of life, levels of life skills, and their clinical determinants in outpatientis with schizophrenia.	Aki H	精神科神経科
Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet 144:1003-1006,2007	The Val66Met polymorphism of the brain-derived neurotrophic factor gene is associated with psychotic feature and suicidal behavior in Japanese major depressive patients.	Iga J	精神科神経科
臨床精神薬理 10(6):983-989	第一世代の抗うつ薬・抗精神病薬の役割	伊賀 淳一	精神科神経科
分子精神医学 8(1)2-9	うつ病の分子マーカー	伊賀 淳一	精神科神経科
Psychiatry Clin Neurosci 61(6):616-621	Activation of the prefrontal cortex during the Trail-Making Test detected with multichannel near-infrared spectroscopy.	Shibuya-Tayoshi S	精神科神経科
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 1:32(1)249-56	Lithium effects on brain glutamatergic and GABAergic systems of healthy volunteers as measured by proton magnetic resonance spectroscopy.	Shibuya-Tayoshi S	精神科神経科
Schizophr Res 99(1-3):367-9	No association between the NDE1 gene and schizophrenia in the Japanese Population.	Numata S	精神科神経科
J Psychiatr Res 42(6):425-32	TGFBR2 gene expression and genetic association with schizophrenia.	Numata S	精神科神経科
分子精神医学7(4):19-24	BDNFと統合失調症	沼田 周助	精神科神経科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anesthesiology Vol.106 No.5 pp.984-99	Isoflurane activates sarcolemmal adenosine Triphosphate-sensitive potassium channels in vascular smooth muscle cells: A role of protein kinase A	Katsuya Tanaka	麻酔科
Anesthesiology Vol.106 pp.515-522	Differential Effects of Etomidate and Midazolam on Vascular Adenosine Triphosphate-sensitive Potassium Channels: Isometric Tension and Patch Clamp Studies.	A Nakamura	腎臓内科
Journal of Clinical Investigation Vol.117 No.6 pp.1514-1526	Strain-dependent embryonic lethality and exaggerated vascular remodeling in heparin cofactor II-deficient mice	Ken-ichi Aihara	内科
Blackwell Publishing Clinical and Experimental Immunology Vol.149 No.1 pp.146-154	CXC chemokine ligand 16 in periodontal diseases: expression in diseased tissues and production by cytokine-stimulated human gingival fibroblasts.	Yoshitaka Hosokawa	歯科
Blood Vol.110 No.1 pp.242-250	Crosstalk between RANKL and Fas signaling in dendritic cells controls immune tolerance	Takashi Izawa	矯正歯科
Journal of Medical Investigation Vol.54 No.3. 4 pp.200-210	Non-cardiac surgery applications of extracorporeal circulation	Kawahito Shinji	麻酔科
Anesthesia & Analgesia Vol.105 No.6 pp.1714-1719	The effects of extracellular pH on vasopressin inhibition of ATP-sensitive K channel's in vascular smooth muscle cells Lippincott Williams & Wilkins	Kawano Takashi	麻酔科
日本口腔外科インプラント学会	上顎右側側切歯先天性欠如症例にインプラント治療を行った1症例	山内英嗣	歯科
American Journal of Physiology Endocrinology and Metabolism	Mechanism of rapid-phase insulin response to elevation of portal glucose concentration.	Akira Mizuno	内科
Cell Biochem Funct Vol.25 No.6 pp.753-758	Role of regulator of G-protein signaling 2 (RGS2) in periodontal ligament cells under mechanical stress	Yasuo Oba	矯正歯科
Journal of Oral Pathology & Medicine Vol.36 No.10 pp.621-624	Possible involvement of stem cell factor and endothelin-1 in the emergence of pigmented squamous cell carcinoma in oral mucosa.	Kazuhito Satomura	歯科口腔外科
Elsevier Applied Science Materials Science and Engineering A Vol.476 pp.308-315	Hydrogen thermal desorption behavior of Ni-Ti superelastic alloy subjected to tensile deformation after hydrogen charging	Masaaki Yokoyama	歯科
Gene Ther.	Atelocollagen-mediated local and systemic applications of myostatin-targeting siRNA increase skeletal muscle mass.	Nao Kinouchi	矯正歯科
Journal of Reconstructive Microsurgery	Flap Monitoring by transcutaneous PO2 and PCO2:Importance of Transcutaneous PCO2 in Determining Follow-up treatment for Compromised Free Flaps	Ichiro Hashimoto	形成外科
「形成外科」増刊号 形成外科手術スタンダード30-	17. 皮膚悪性腫瘍の診断と標準的治療法	中西秀樹	形成外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
形成外科(The Japanese Journal of Plastic)	Flap Monitoring by transcutaneous PO2 and PCO2:Importance of Transcutaneous PCO2 in Determining Follow-up treatment for Compromised Free Flaps	松尾 伸二	形成外科
Oral Microbiology and Immunology Vol.23 No.1 pp.55-59	Relationship between &lt;i&gt;Campylobacter rectus</i> and periodontal status during pregnancy.	Masaaki Yokoyama	歯科
J Clin Microbiol	High-level fluoroquinolone resistance in ophthalmic clinical isolates belonging to the species <i>Corynebacterium macginnieleyi</i>	Eguchi,H.	眼科
BMC Bioinformatics	Evaluation of sample size effect on the identification of haplotype blocks	Shiota,H.	眼科
J Hum Genet	SNPs in the KCNJ11-ABCC8 gene locus are associated with type2 diabetes and blood pressure levels in the Japanese population	Shiota,H.	眼科
眼科	特殊な医療材料を用いた角膜移植術	江口 洋	眼科
Spine J	Pseudoaneurysm of the thoracoabdominal aorta caused by the severe migration of an anterior spinal device.	Kousaku Higashino	整形外科
The Journal of Nursing Investigation Vol.6 No.1	Study on factors related to loss of lower extremity muscle mass in elderly acute stroke patients.	Shinjiro Takata	整形外科
Gynecologic Oncology Vo.107	Radiation therapy for cervical cancer in the elderly	Kyoh Yamashita	放射線科
J Neurosurg Spine	Epidural rheumatoid nodule.	Nori Hirohashi	整形外科
Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America Vol.105	Targeted deletion of the murine corneodesmosin gene delineates its essential role in skin and hair physiology.	Shinji Matsuo	形成外科

計 61

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当つてないよう審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なもの

を記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 香川 征			
管理担当者氏名	・総務課長	小西 竹生	・医事課長	田村 和彦
	・手術部長	永廣 信治	・薬剤部長	水口 和生
	・看護部長	大岡 裕子	・放射線部長	西谷 弘

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者 者に係る入院期間中の診療経過の要約	各診療科(部) で保管	各診療科(部)で保管している。(なお、カルテについては、一部電子カルテシステム、診療録管理室にて管理しているものもある。)	
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	文書ファイルで保管している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課、医事課	
	閲覧実績	総務課、医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
確規 保則 の第 状9 況条 の2 及 3 び 第 1 1 條 各 号 に 掲 げ る 体 制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事課	文書ファイルで保管している。
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医事課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

		保管場所	分類方法
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規則第1条の1号各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医事課 文書ファイルで保管している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための件数実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	医事課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME 管理センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 管理センター
(注)	「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 管理センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	ME 管理センター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 山本 隆司
閲覧担当者氏名	総務課長 小西 竹生
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延 0 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	77.2 %	算 定 期 間	平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
算	A : 紹 介 患 者 の 数		14,057 人
出	B : 他 の 病 院 又 は 診 療 所 に 紹 介 し た 患 者 の 数		10,125 人
根	C : 救 急 用 自 動 車 に よ つて 搬 入 さ れ た 患 者 の 数		449 人
拠	D : 初 診 の 患 者 の 数		21,760 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

### 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ( 1名 )・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ( 1名 )・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 所属職員： 専任（ 2 ）名 兼任（ 5 ）名	
・ 活動の主な内容：	
(1) 本院において発生した医療上の事故等の原因究明、調査、分析及び対策の検討並びに当該医療上の事故等の再発防止に関する事。	
(2) 事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関する事。	
(3) 患者及び家族への説明等事故発生時の対応状況についての確認及び指導に関する事。	
(4) 医療上の事故等の防止に関する教育及び研修の企画及び実施に関する事。	
(5) 医療上の事故等の防止に関する情報の収集及び提供に関する事。	
(6) 医療上の事故防止安全対策マニュアルの改訂に関する事。	
(7) インシデント報告の管理に関する事。	
(8) リスクマネジメント委員会で用いられる資料及び議事要録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関する事。	
(9) 医療安全に係る連絡調整に関する事。	
(10) 医薬品の安全使用に係る連絡調整に関する事。	
(11) 医療機器の安全使用に係る連絡調整に関する事。	
(12) その他医療上の事故防止及び医療の安全性の向上に関する事	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 指針の主な内容：	
徳島大学医学部・歯学部附属病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。	
特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。	
(1) 用語の定義	
(2) 安全に管理に関する基本的考え方	
(3) 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項	
(4) 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針	
(5) 医療上の事故等の報告に関する基本方針	
(6) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針	
(7) 患者等からの相談及び苦情等への対応に関する基本方針	
(8) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針	
(9) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 64 回
・ 活動の主な内容：	
リスクマネジメント委員会（月1回、臨時3回、持回り1回）	
(1) 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関する事。	
(2) 医療上の事故等発生時の対応に関する事。	
(3) 医薬品の安全使用に関する事。	
(4) 医療機器の安全使用に関する事。	
(5) その他医療上の事故等に関する事。	

リスクマネジメント部門会議（全体・分析・評価 各月1回）  
次の各号に掲げる事項について、調査、分析及び提言を行う。

- (1) 直面したインシデントの内容
  - (2) インシデント報告に基づく事故レベルの検証
  - (3) インシデントの発生原因及び防止策
  - (4) インシデントに対し講すべき改善措置
  - (5) 前号の改善措置の評価
  - (6) その他医療上の事故に関する事項
- リスクマネージャー連絡会（月1回）
- (1) 医療現場での安全管理意識の維持と医療上の事故等防止対策の周知徹底を図ること。
  - (2) 所属の医療現場において、医療行為がマニュアルに準じて適切に実施されているかを常に確認し、指導すること。
  - (3) 医療現場からのインシデントの予防方策を提言すること。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 8 回

- ・ 研修の主な内容：
  - (1) 医療安全管理に関する取り組みについて
  - (2) 医療事故にどう対応するか
  - (3) 薬剤の安全な使用について
  - (4) 深部静脈血栓症（DVT）予防基礎知識とMRI装置の安全性について
  - (5) 輸液ポンプ・シリングポンプの取り扱いについて
  - (6) インフォームドコンセントについて
  - (7) 人工呼吸器の管理について
  - (8) 縫合実習

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善の方策の主な内容：
  - (1) MRI検査オーダー時にペースメーカーの有無を確認し、データ入力を実施しないと検査オーダーができないようにシステム変更した。
  - (2) シリンジポンプ、輸液ポンプの完全機種統一を実施し、必要台数の見直しを実施。
  - (3) FAXの不具合による情報伝達不備が発生したため、各部署のFAXの調査を実施し、不備のあるものはすべて更新した。
  - (4) 診断書や補助診療録、臨時検体等個人情報が安全に搬送されるよう、専用の容器を統一した。
  - (5) 医療事故発生時の対応マニュアルにチェックリストを追加するなど、現場で使いやすいように改訂した。

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

<p>① 院内感染対策のための指針の策定状況</p>	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 5px;">(有)・無</span>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： 徳島大学医学部・歯学部附属病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。 特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができ環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">(1) 用語の定義 (2) 安全管理に関する基本的考え方 (3) 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項 (4) 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針 (5) 医療上の事故等の報告に関する基本方針 (6) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 (7) 患者等からの相談および苦情等への対応に関する基本方針 (8) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (9) その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 36回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： 感染対策委員会（毎月1回） (1) 院内感染の予防及び対策に関すること。 (2) 院内感染防止の実施、監視及び指導に関すること。 (3) 院内感染発生時の措置に関すること。 (4) 職員の院内感染の教育に関すること。 (5) 安全管理対策室感染対策部門の運営に関すること。 (6) その他院内感染に関すること。 感染対策部門会議（毎月1回） (1) 院内における感染症対策及びその指導に関すること。 (2) 抗菌薬の適正使用の推進に関すること。 (3) 感染症サーベイランス施行に関すること。 (4) 職員に対する感染症の教育及び啓発に関すること。 (5) 感染症に関する院内及び院外への広報及び他の医療機関との情報提供に関すること。 (6) 感染症一般の情報管理に関すること。 (7) その他院内感染防止対策に関すること。 I Cマネージャー連絡会（月1回） (1) 所属部署において院内感染対策の周知徹底を行い、その見直しについて提言すること。 (2) 所属部署における感染情報を把握し、院内感染対策を実施し、指導すること。</li> </ul>	
③ 従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 8回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 1) 結核の院内感染対策とPPE 2) 見過ごされるアウトブレイクの危険ーあなたの病院は大丈夫か? 3) 抗MRSA薬の適正使用に役立つPK/PDパラメーター 4) 当院における特定抗菌薬の使用届け出 5) 当院における抗菌薬の適正使用 6) 当院における針刺し事故防止 7) 当院における結核感染防止 8) 当院における手術部位感染防止</li> </ul>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有・無 )
- ・ その他の改善の方策の主な内容:
  - (1) 院内感染対策マニュアルに細菌感染やウイルス感染発生時の対応・感染予防策抗菌剤の適正使用などについて明記しており、そのマニュアル遵守状況についてラウンドなどでチェック評価を行っている。
  - (2) MR SAなどの耐性菌検出時には、検査部から感染対策部門への連絡があり、感染対策看護師長が耐性菌警告書により発生部署へ説明・指導を行っている。必要時にはICTが介入する。
  - (3) 定期的な全体研修会以外にリーダーシップのとれる職員を育成するための院内感染管理認定コースという研修プログラムを立ち上げた。
  - (4) 抗菌薬の適正使用のため、14日以上使用している全ての抗菌薬について投与理由書の提出や抗MR SA薬使用時のTDM実施を義務づけている。

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容： 処方の注意点、医薬品の適正な管理方法、麻薬の取り扱い方法 薬剤に関する重大な医療事故防止のための注意点 抗菌薬の適正使用</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の作成 <input checked="" type="radio"/> 有・無)</li> <li>業務の主な内容： 各種薬剤業務、病棟における医薬品管理が適正に行われているかを病棟間相互チェック等の際に調査し、不備な点を指摘し改善している。</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="radio"/> 有・無)</li> <li>そのほかの改善の方策の主な内容： 新規の医薬品情報があることを E-Mail を利用し提供することができ、また、個々の医師別に使用頻度の高い医薬品をオーダリングシステムのデータベースから抽出し、該当する医薬品情報を E-Mail を利用し配信することができるオンデマンド型医薬品情報提供システムを構築し、稼働を開始した。本システムは、本院の職員であれば利用可能であり、現在は医師及び看護師、薬剤師を中心運用を開始している。</li> </ul>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容： 機器の操作方法、取り扱い上の注意点、アラーム発生時の対応法などの内容で、人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器について実施している。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有)・無 ・ 保守点検の小野な内容： 定期的な（メーカーの指定期間）、プリベンティブメンテナンスや機器のオーバーホールをメーカーに依頼、実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無 ・ その他の改善の方策の主な内容： 機器の添付文書および医薬品・医療機器情報配信サービスに登録し、利用している。	